

ギタリスト紹介

Guitarist Profile *Takashi Nemoto*
vol. 6

根本隆司 (新潟市)



教室情報

根本ギター教室 025-230-6658

JR 越後線「関屋駅」徒歩 12 分

〒951-8141 新潟市中央区関新 2-1-73-1201

<http://www.on.rim.or.jp/~nemoto/> (詳細はこちらをご覧ください)

event

- 10/27 (土) 18:30 開演、新潟市音楽文化会館 ホール
新潟市芸能まつり「ギターの日」
- 12/1 (土) 18:30 分開演 たいしホール
第 2 回根本隆司と門下生によるギターコンサート

—— ギターを始めたきっかけを教えてください。

小学校高学年の頃、周りの影響でウクレレを始め、いつの間にかギターがそれ取って代わりました。その頃は適当に弾いていただけですが。その後通信教育の試聴レコードを聴き、イエペスの弾くソルの《月光》に感動しました。高校卒業までは、この通信教育の教材の中の好きな曲だけを練習するという不真面目な独学でした。

大学では古典ギター同好会に入り、初めて人からギターを教わりました。合奏ではなく独奏が中心の同好会で、4 年生が 2 年生を、3 年生が 1 年生を教えるのです。そして 2 年生になってから、先輩の紹介で橘川恭則先生に師事しました。

—— 恩師についての思い出話を聞かせてください。

橘川先生のレッスンでは技術的にも音楽的にも、合理的な方法を非常に丁寧にわかりやすく教えていただきました。それに引きかえ大学（物理を専攻していた）の教授たちの授業はわかりにくく、本当に教える気持ちがあるのだろうかと思いました。

大学を中退し、ギターを教え始めたのですが、私のレッスン方針は合理的な奏法をわかりやすく提示し、生徒が最小限の労力で上達できるように指導するということです。「自分で気づく

なさい」式の指導はあり得ません。先生に言われる前に自分で考えて気づくことも大切ではありますが。

—— 留学経験はありますか？

最初はギターを職業にするつもりはなく、普通に就職してギターは趣味でやっていければいいと考えていました。だから留学はしていません。

留学ではありませんが、1994 年にドイツのハイムバッハで開催された音楽祭の講習会に参加しました。その時の講師の佐々木忠、原善伸の両氏とはその後親しくさせていただき、二重奏での共演などを通していろいろ教えていただきました。

—— デビューコンサートについて教えてください。

大学中退後紆余曲折がありましたが、やっとギター教師として仕事の心配をせず、自分の演奏のことを考えられるようになって初リサイタルをしたのは、42 歳になってからでした。

音楽教育活動と演奏活動の両立はなかなか大変ですが、上級者にレベルの高い指導をするため、初中級者に対しても充実した指導をするため、ギタリストというよりギター教師である私自身の演奏経験を重ねていくことが大切であると考え、自分のリサイタルを 2 年に一度開催することを目標としています。

—— 毎日の練習で、何か決まったメニューはありますか。

まず指慣らしとしてブローウェルの《11 月のある日》を 1～2 回弾き、時間のある時はソルの《エチュード第 17 番》も加える。それから音階とアルペジオをゆっくりのテンポで。さらに速いテンポでも弾きたいところですが、この辺で課題の曲の練習に入ってしまう。

—— テクニック上達の秘訣は何だと思いますか。

闇雲に練習するのではなく合理的なやり方を考えて取り入れれば、完成までの練習時間も短縮されます。とくに重要なのは左手で、そのフォームは同じポジションでも状況に応じて使い分けられることが大切です。それには親指の位置がポイントになります。左指の運指もそれに関連して重要で、音楽が犠牲にならない範囲での運指の変更をいつも考えています。これは難しいパッセージの克服や、脱力にもつながります。

また生徒によく言うのは「うまく弾けない時は、それが弾ける速さまでテンポを落としてゆっくり練習し、弾ける状態を保ったままで徐々にテンポを上げなさい」ということです。でも私自身もそうですが、これがなかなかできないんですね。つい速く弾いてしまう。

—— 最近練習している曲を教えてください。

恩師橘川先生のお得意なレパートリーである清水環先生の《古代舞曲》。私も過去のリサイタルで弾いたのですが、さらに深みのある演奏にしようとして練習しています。ちなみに清水環先生には和声学を 1 年間教えていただきました。

—— 楽器遍歴を教えてください。

今まで使ってきたギターを挙げると、井田英夫、ヤマハ（江崎秀行）、※ベルナベ（1973 年）、フレドリッシュ、※アグアド（1964 年）、※星野良充（1998 年）、※シュレンパー（2002 年）。現在も所有しているのは※印の 4 本で、いずれも長所欠点があり「この 1 本」というわけにはいきません。最近のリサイタルではシュレンパーを使いました。

—— 使用弦は何ですか。

オーガスティン赤ラベルのような明るい音色が好きですが、弦にはあまりこだわりを持っていませんので、癖のない安定したものとしてプロアルテ・ノーマルを使っています。

—— レッスンで使用している教則本、教材は何ですか。

ヤマハの「クラシックギターコース 1～4」を 20 年以上使っています。カルカッシ 25 (Op.60) とソル 20 (セゴビア編) の練習曲ももちろん必須教

材ですね。

—— 心に残る思い出の曲は何ですか。

30 年位前に FM で聴いたアルフレッド・デラー（カウンターテノール）がデモン・デュプレ（リュート）と録音したダウランドの《流れよ、わが涙》は素晴らしかった。その後デラーが別のリュート奏者と録音したレコードを買いましたが、比べるとイマイチでした。

それから同じ頃ズザナ・ルージッチコヴァ（チェンバロ）の《フランス組曲》を聴いて、「なるほど」とバッハの音楽への理解が深まったと感じた覚えがあります。

—— 好きなギタリストと好きなアルバムは何ですか。

ジュリアン・ブリームが弾くバッハの《リュート組曲第 1、2 番》のレコードは、若い頃ゾクゾクしながら繰り返し聴きました。今となっては古い感がありますが、若い人たちにも聴いてほしいですね。

—— 最近読んでよかった本を教えてください。

バロック時代に書かれたヨハン・ヨアヒム・クヴァンツの「フルート奏法」はフルート奏者のみならず全ての演奏家にとって役立つバイブル的な名著ですが、昨年出版された前田りり子著「フルートの肖像」も同じ意味でお薦めです。それから橋本英二著「バロックから

初期古典派までの音楽の奏法」は、クヴァンツの本もそうですが単にバロック時代の演奏習慣を知るととどまらず有益です。これらの 3 冊から 1 冊を選ぶなら橋本氏の本ですね。

—— 今後の抱負を聞かせてください。

自分のリサイタルと「根本隆司と門下生によるギターコンサート」を隔年開催で交互に行っていますが、その継続と質の向上を計りたいです。これまで準備不足で演奏会を迎えてしまうことが多々あったので、今後はそのようなことがないように努力しなければと思っています。

それから、自分はいいい先生に巡り会えて本当によかったと思っているので、自分も生徒たちからそう思ってもらえるように頑張っていきたいです。

—— 付録 CD に収録された録音について説明してください。

2003 年 11 月に開催したリサイタルでは後半をギター二重奏とし、原善伸さんと共演させていただきました。その時のアンコール曲、ナポリ民謡の《輝ける君が窓ははや暗し》です。旋律と伴奏を交互に弾いています。

—— 今日はどうもありがとうございました。

一介の田舎ギター教師をとり上げていただきありがとうございました。